

# NUDE

## ヌード／裸婦 美術を楽しむためのキーワード

美術館で、街中で、私たちはあたりまえのようにヌードの絵画や彫刻に出会います。

西洋では、古くから、「人体(裸体)」をモチーフとして、

時代や社会を反映する作品が生み出されてきました。

日本では、明治以降、西洋の画法を取り入れる上で、「ヌード」、とくに「裸婦」と呼ばれる女性の裸体をモチーフとした作品がたくさん描かれました。

しかし、普段は衣服に隠されているはずの「人の裸」があらわになることは、

果たして「あたりまえ」と言い切れるのでしょうか。

「ヌード」を巡る賛否両論は時代や国によってさまざまに展開し、

今なお、議論は絶えることがありません。

本講座では、3名の講師が、「ヌード」、「裸婦」というモチーフをめぐって、

西洋美術史、日本の近代美術史、そして戦後日本の彫刻史の分野から、それぞれの視点で語ります。

### 《講師プロフィール》



長谷川珠緒

Tamao HASEGAWA

1978年東京都生まれ。横浜美術館学芸員。国立新美術館設立準備室、国立新美術館勤務を経て2016年より現職。ロンドン大学大学院ロイヤル・ハロウェイ校(美術史)、パークベック校(歴史学)修了。19世紀後半以降、ジャポニズムをはじめとする東西の文化交流史を主な研究対象とする。横浜美術館での担当展に「ファッションとアートー麗しき東西交流」、「ヌードー英国テート・コレクションより」など。



蔵屋美香

Mika KURAYA

東京国立近代美術館企画課長。千葉県生まれ。千葉大学大学院修了。おもな展覧会に「ぬぐ絵画ー日本のヌード 1880-1945」(2011-12年)、第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーション(2013年、アーティスト:田中功起)、「高松次郎ミステリーズ」(2014-15年、保坂健二郎・榎田倫広と共同キュレーション)、「藤田嗣治、全所蔵作品展示。」(2015年)など。2012年から16年まで所蔵作品展「MOMATコレクション」の展示構成を担当。



小田原のどか

Nodoka ODAWARA

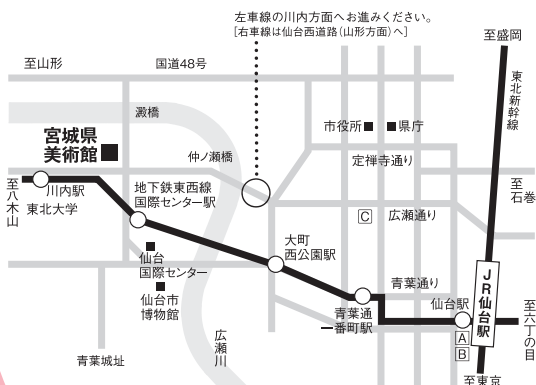
1985年宮城県仙台市生まれ、東京都在住。彫刻家。彫刻・銅像・記念碑研究。博士(芸術学)。版元運営。最近の論文に「空の台座:公共空間の女性裸体像をめぐって」(『彫刻 SCULPTURE1』所収)。近著に『彫刻 SCULPTURE1』、『彫刻の問題』(白川昌生、金井直との共著)。主な受賞に、アロッドメントトラベルアワード2018大賞、群馬青年ビエンナーレ2015優秀賞、第12回岡本太郎現代芸術賞入選。

◎会場:佐藤忠良記念館(宮城県美術館別館)地下1階アート・ホール

◎定員:60名程度 ◎お申込・お問合せ:022-221-2114(教育普及部直通)

◎お申込受付:平成31年2月1日 9:30~ ※当日受付もいたしますが、人数把握のため、事前申込にご協力をお願いいたします。

### 《アクセス》



#### 地下鉄をご利用の場合

仙台市営地下鉄東西線「国際センター駅」西1出口から北へ徒歩7分、「川内駅」北1出口から東へ徒歩7分。

#### 路線バスをご利用の場合

仙台市営バス/仙台駅西口バスプール9番乗り場より、「730系統:川内営業所前行」「739系統:(広瀬通経由)交通公園循環」のいずれかに乗車、「二高・宮城県美術館前」下車徒歩3分。

(仙台駅より所要約15分)

るーぶる仙台/仙台市内の観光スポットを結ぶ循環型バスです。当館の最寄りには「国際センター駅・宮城県美術館前」と「二高・宮城県美術館前」の2度停車します。

#### 高速道路をご利用の場合

東北自動車道「仙台宮城 I.C.」より仙台市街方面(仙台西道路)に入り、仙台北城跡方面を經由して美術館へ。I.C.より約15分。